

玉川ルネサスリストラ相談会

ルネサスリストラ
相談会報告
第2号
発行日：2014. 2. 8

二月七日（金）に、第2回目となる相談会を開催いたしました。

職場の声

化合物デバイスの職場では、火曜日に職制からの説明があり、その後で労組の職場会があった。事務職の女性の行き場が無いのも問題だ。

実テ技括は、一部の職場で武蔵か高崎が決まっていなかったが、本日内々示があった。高崎行きを告げられた方は落胆し、退職しか無いと言っていた。

実テ技以外の生産本でも、本日から内々示がはじまった。

生産本の早期退職は、募集が2月28日から3月7日で、3月末には退職と言われた。あまりにも急な日程であるにも関わらず、会社からは十分な情報も無く、これでは選ぶこともできない。

転職しなければ早期退職しか無いと思わせられているとしたら、退職強要にあたるのではないか。

むかし化合物デバイスの方と一緒に内藤電誠に出張したとき、21時まで仕事をして帰ろうとしたら、彼らは帰ろうとせず、0時まで働いていた。そうやって頑張って黒字化した時代もあったのに、どうしてこうなってしまったのか。

利益のために労働者を犠牲にするという考え方はひどすぎる。小泉内閣の頃から急におかしくなった様に思える。

毎日不安で、みんな仕事に集中できる状況ではないようだ。これから早期退職の選択を迫られるので、ますます不安になると思われる。

『部門封じ込め』の問題

化合物デバイス事業部は、2014年度に黒字化達成」を目標とされ、そのために現在の169名を半数の85名まで削減すると言われています。そもそもなぜ来年度いきなり黒字化が必須なのかについて、会社から納得の行く説明もありません。早期退職の選択期限がどんどん近づいていて、職場の人たちは強い不安を感じています。

Core47号で労働組合は、今回会社が実行しようとしている「人員適正化」のあり方を、従前の

グループ内を中心としたリソースシフト・再配置を基本とする考えから大きく変わるものである」として、現時点で容認できないと述べています。しかし、この化合物デバイスで展開されているリストラこそは、削減対象となる半数の社員のほとんどを社内他の部門では受け入れず、グループ外に押しやる方向に進められています。

こうした事が行われる背景には、部門単位の独立採算性を強力求め、黒字化出来なければ部門の責任でリストラをさせる構造を定着させようとの思想があると思えます。仮にそうであるとすれば、この問題は化合物デバイスに留まらず、今後分社化が予定されている生産部門はもちろんのこと、非主流派」を集めたと言われている第2ソリューション事業本部内において、不採算製品を抱える部門でも、同様の理屈で人員削減が行われる恐れを感じます。今後、化合物デバイスのリストラにおいて、どれだけ実質的な指名解雇を防いで雇用を守り、如何にしてソフトランディングさせるかは、他部門の雇用を守るうえでも、とても重要になると考えます。

次回第3回目は、2月14日（金）の18時より20時まで開催いたします。開催時間帯であれば、いつでも御入室いただけます。職場でお誘いあわせのうえ、お気軽にご参加ください。

- ◆場所：中小業者総合センター 2階会議室
川崎市中原区下沼部 1880
- ◆主催：電機・情報ユニオンルネサス懇
- ◆連絡先：森 英一
(090-4834-6876)
- ◆参加費：無料